基本絵　32枚!!
総枚数　108ページ!!
ウチの南米妻がエロ過ぎて
他の男達が放っておかない！

#01 夫とイチャラブSEX

俺は平凡なサラリーマン
顔も年収もそこそこで
誇れるものなどほとんどない
しかし、一つ自慢できること
それは…

「ダーリンお帰り～♡」
ウチの自慢の妻「エレーナ」
海外出張の時に出会い
一目惚れし、その場でプロポーズし結婚した

このドエロイ肉体に惹かれて結婚したと
言っても過言ではないのだが
エロイのは身体だけではなく…
ムチッ♥
ムチッ♥
ムチッ♥
ムチッ♥

毎晩熱烈な出迎えをしてくれるのだが
今日はいつにも増して積極的だった
チュッ♥
チュッ♥
ムニュッ♥
ムニュッ♥
「ダーリン会いたかったわ～♡」
結婚したばかりで2人の関係は熱々だった
キスだけでは飽き足らず…

俺を押し倒し衣服を剥ぎ取るよう脱がせてきた
「どっ!! どうした今日はやけに積極的だな！」
「今日はムラムラしちゃってダーリンと早くしたかったの♡イイでしょ？」
そう言われて悪い気はしない彼女は俺のイチモツに顔を近づけ…
ムチッ♥
ムチッ♥
ビンッ♥
ビクッ♥

「おっ♡おおぉ♡」
豊満な身体で押さえつけ
濃厚なディープフェラをし始めた
「んふっ♡ダーリンはここ弱いの
知ってるんだから♡」
ブリンッ♡
じゅるっ♡
ぢゅるっ♡
ブリンッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
結婚して日が浅いのに俺の気持ちイイ所を
把握していた、その容赦ない攻めに思わず
「あッ♡ちょっ♡ちょっと待ッ…♡♡」

あまりの気持ち良さにものの
数分ででイってしまった
「あはっ♡こんなに出しちゃって♡
勿体ない～♡」
しかし新婚の熱い夜の生活は
これで終わらず…
ムワッ♥
ドロッ♥
ベトッ♥
ムワッ♥
ビュルッ♥
ドピュッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥

場所を浴室に2ラウンド目が始まった
「は～いッ♡ダーリンの好きなパイズリよ♡」
他の男が羨む程のパイズリを毎晩のようにして貰っていた
その巨大な胸は俺のイチモツはスッポリ隠してしまい挟まれただけでイキそうになるのだが…
ユサッ♡
ムチッ♡
タプン♡
ズポッ♡

「おっ♡おおぉ♡」
動かし始めると更に感度は増し
思わず声が出てしまう
「アレ～？さっき出した
ばっかりなのにもうカチカチなのね♡」
パンッ♡
パンッ
クチャ♡
ヌチャ♡
パンッ♡
巨大な胸の中で弄ばれる感覚は
今にもイってしまいそうな快感だった
しかし夫の威厳を少しでも
見せるため必死に堪えた

「くっ♡はぁ♡」
「うふふっ♡そんな声出しちゃって♡無理しないでイっちゃたらどう♡」
少しでも長くパイズリを味わっていたかったがその甘い誘惑に勝てず…！
パンッ♡
パンッ♡
クチャ♡
ヌチャ♡
パンッ♡

「あっ♡スゴ～い♡2回目なのにココまで飛んだぁ～♡」
エレーナの肉厚な胸から零れるほどの射精し浴室ザーメンの生臭さが充満した
だがここまでは前戯に過ぎなかった…
「続きはベッドでね♡」
ムワッ♡
ビクッ♡
ドピュッ♡
ビュルッ♡
ムワッ♡
ベトッ♡
ドプッ♡

寝室に場所を移してプレイを再開した
「あんっ♡　スッゴいっ♡」
胸に負けないくらい大きな尻を振り部屋には肉と肉がぶつかり合う音が響いた
ジュポッ♡
ユサッ♡
ユサッ♡
パンッ♡
ブルンッ♡
パンッ♡
「ねえ♡ダーリン♡私早く子供欲しいのぉ♡だからお願いぃ♡」

ヤケに積極的だと思ったらそういうことか
男としていや、雄として雌に
せがまれるのは悪い気がしない
「それじゃあ、ちゃーんと
おねだりしてもらおうかw」
「あッ♡お願いダーリン早くぅ♡
ザーメン膣内に射精してぇ♡」
ジュポッ♡
ユサッ♡
ユサッ♡
パンッ♡
ブルンッ♡
パンッ♡
媚びた甘ったるい声を上げ膣内を
ヒクつかせ射精を促してくる
我が妻ながらイヤらしくて困ったものだw
「エレーナ！出すぞ！しっかり受け止めろ！」

3度目だというのに濃厚なザーメンを膣内に注ぎ込んだ
「あっ♡　スッゴいッ♡　熱いザーメン奥までキてるッ♡」
ビュルッ♥
ビュルッ♥
ビュルッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ドピュッ♥
ドピュッ♥
しかし俺の性欲はまだ収まらず…

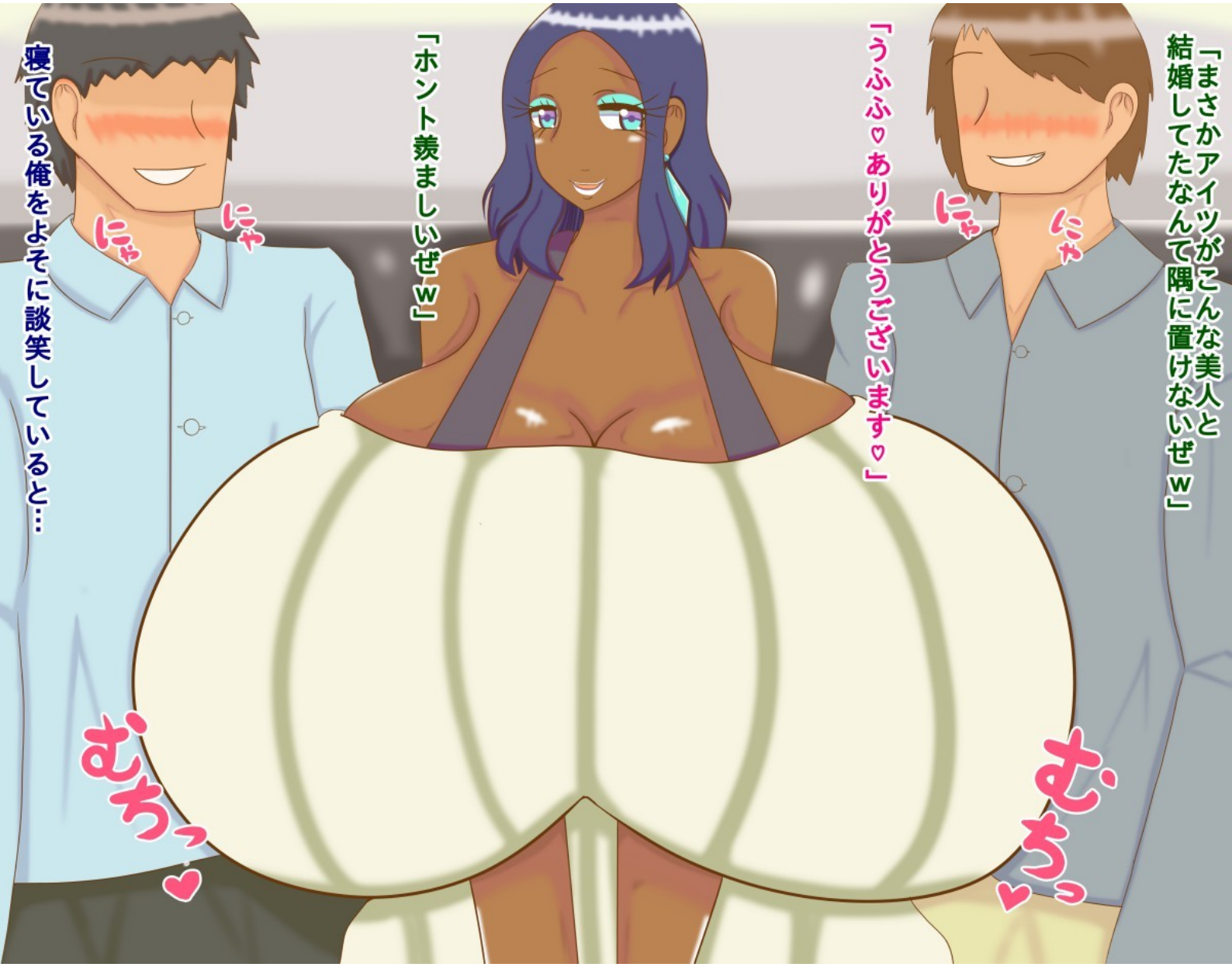
2人の子作りは更にヒートアップしていた
そこに言葉はなく繁殖期の動物のように
一心不乱に腰を振った
そしてしばらくすると俺は限界を迎え
「エレーナっ！もう1発出すよ！」

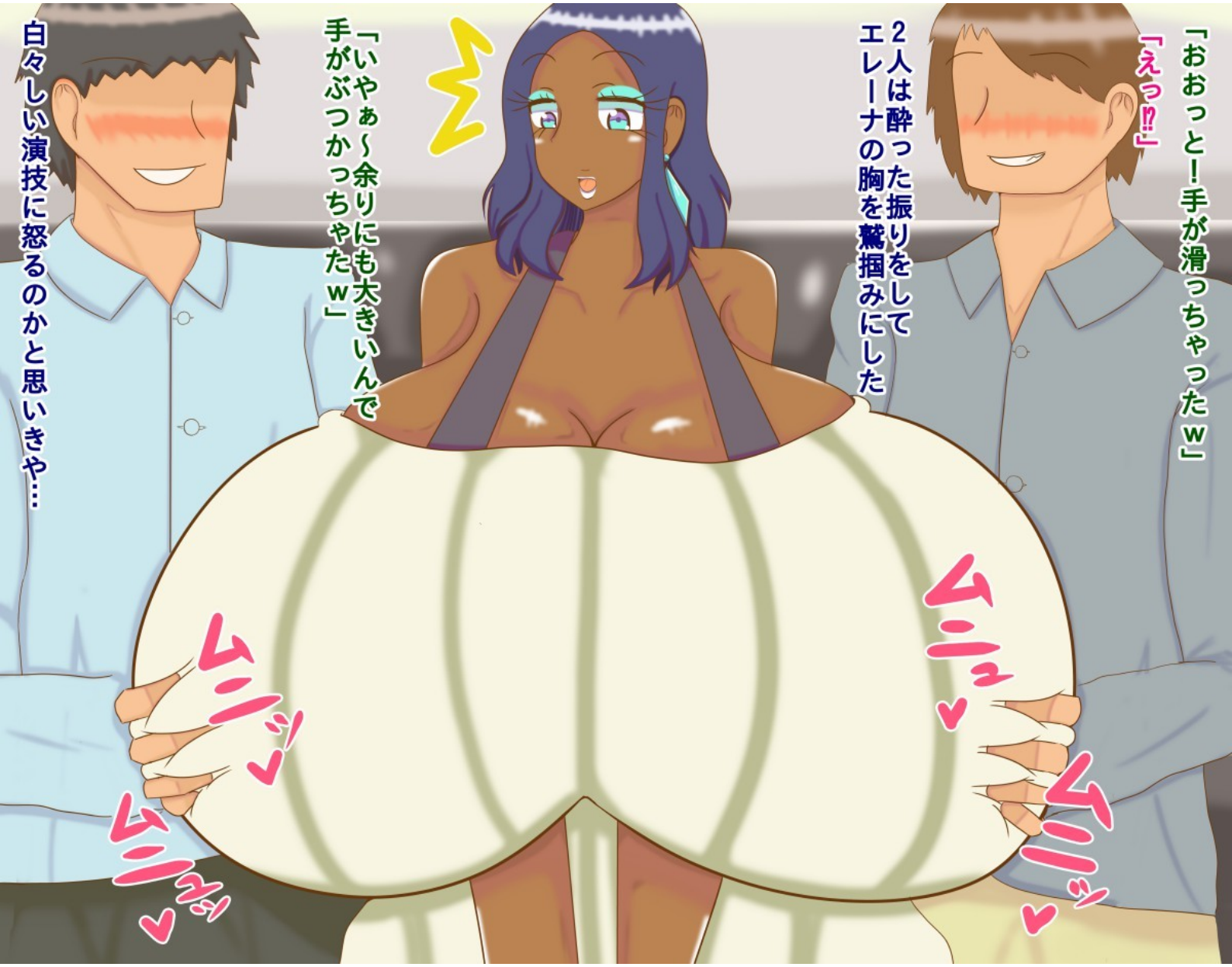
「はぁ♡はぁ…♡」
再び彼女膣内にこれでもかと射精した
（これだけ出せば大丈夫だろう…）
予想は当たり
この数ヶ月後子どもを授かった
ビグッ
ビグッ
ビグッ
ビグッ
ビグッ
ビグッ
ビグッ
俺はとんでもない幸せものだ
子どもを授かりこんないい女の
肉体を独り占めできるのだから
その時の俺はそう思っていた…

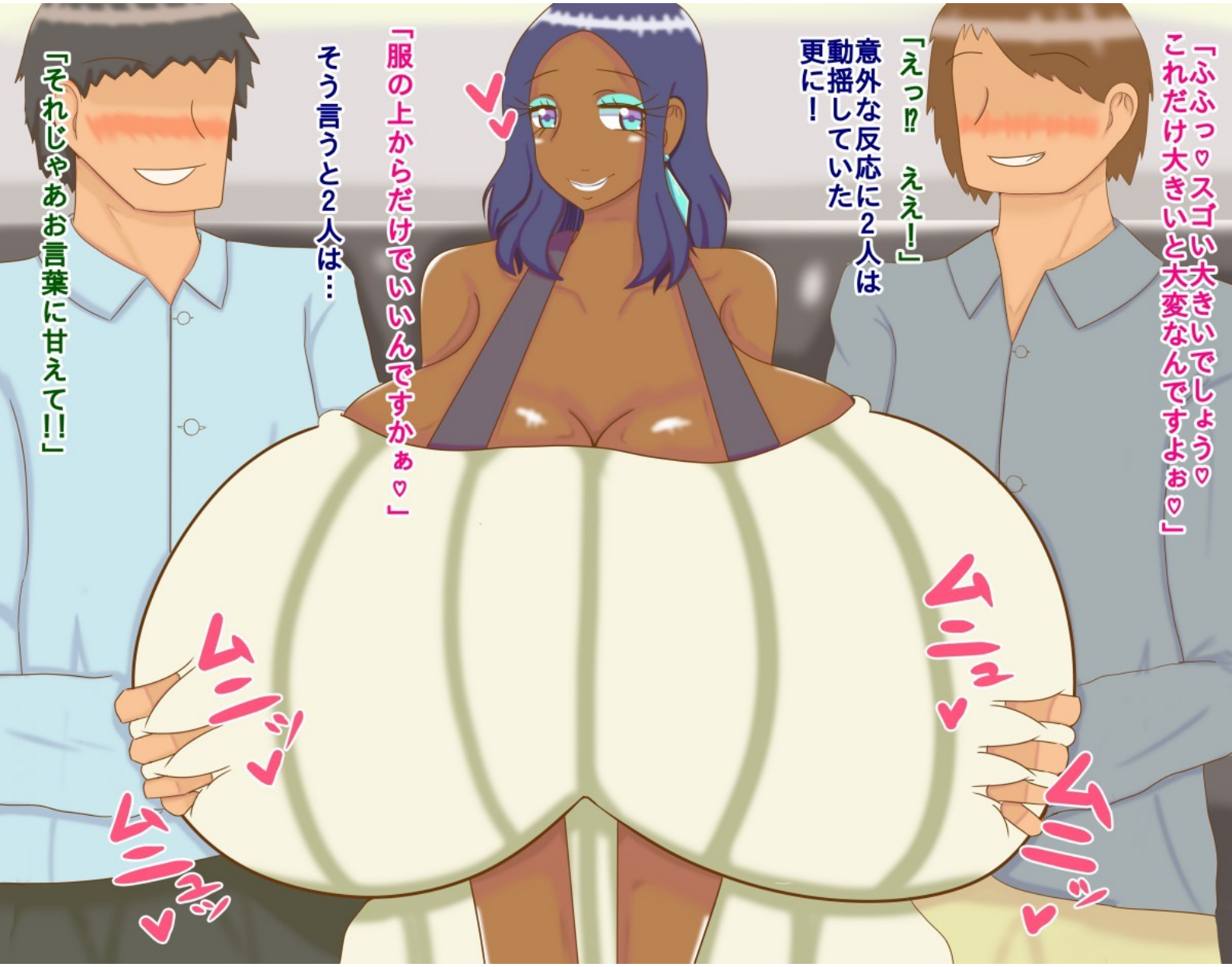
#02　夫の友人達と…

ある日の事
俺は結婚報告も兼ねて友人2人を
家に招きエレーナを紹介した
「ハ～イ♡
妻のエレーナです♡」
「どっ、どうも」
その後自宅で4人で飲み会をしたのだが…

その日は酒が進み俺は酔いつぶれてしまった
「あらあら♪ごめんなさいね
せっかく来てくれたのに
主人の方が先に潰れちゃって♡」
ZZZ…
飲み会はお開きかと思われたが…
Asohi
Asohi


「まさかアイツがこんな美人と結婚してたなんて隅に置けないぜw」
「うふふ♡ありがとうございます♡」
「ホント羨ましいぜw」
寝ている俺をよそに談笑していると…
にゃ
にゃ
にゃ
にゃ
むちっ♥
むちっ♥


「おおっと！手が滑っちゃったw」
「えっ!?」
2人は酔った振りをして
エレーナの胸を鷲掴みにした
「いやぁ～余りにも大きいんで
手がぶつかっちゃたw」
白々しい演技に怒るのかと思いきや…
ムニュ
ムニッ
ムニッ
ムニッ
ムニッ


「ふふっ♡スゴい大きいでしょう♡
これだけ大きいと大変なんですよぉ♡」
「えっ⁉　ええ！」
意外な反応に2人は
動揺していた
更に！
「服の上からだけでいいんですかぁ♡」
そう言うと2人は…
「それじゃあお言葉に甘えて!!」
ムニュ♡
ムニッ♡
ムニッ♡
ムニッ♡
ムニッ♡

「スッ！スゲぇ!!」
服を捲り上げ
巨大な胸が露わになった
2人は規格外のバストを
欲望のまま揉みしだいた
それだけでは飽き足らず
「もう我慢できねぇ！」
むちっ♥
むにっ♥
ぶるん♥
むちっ♥
むにゅ♥

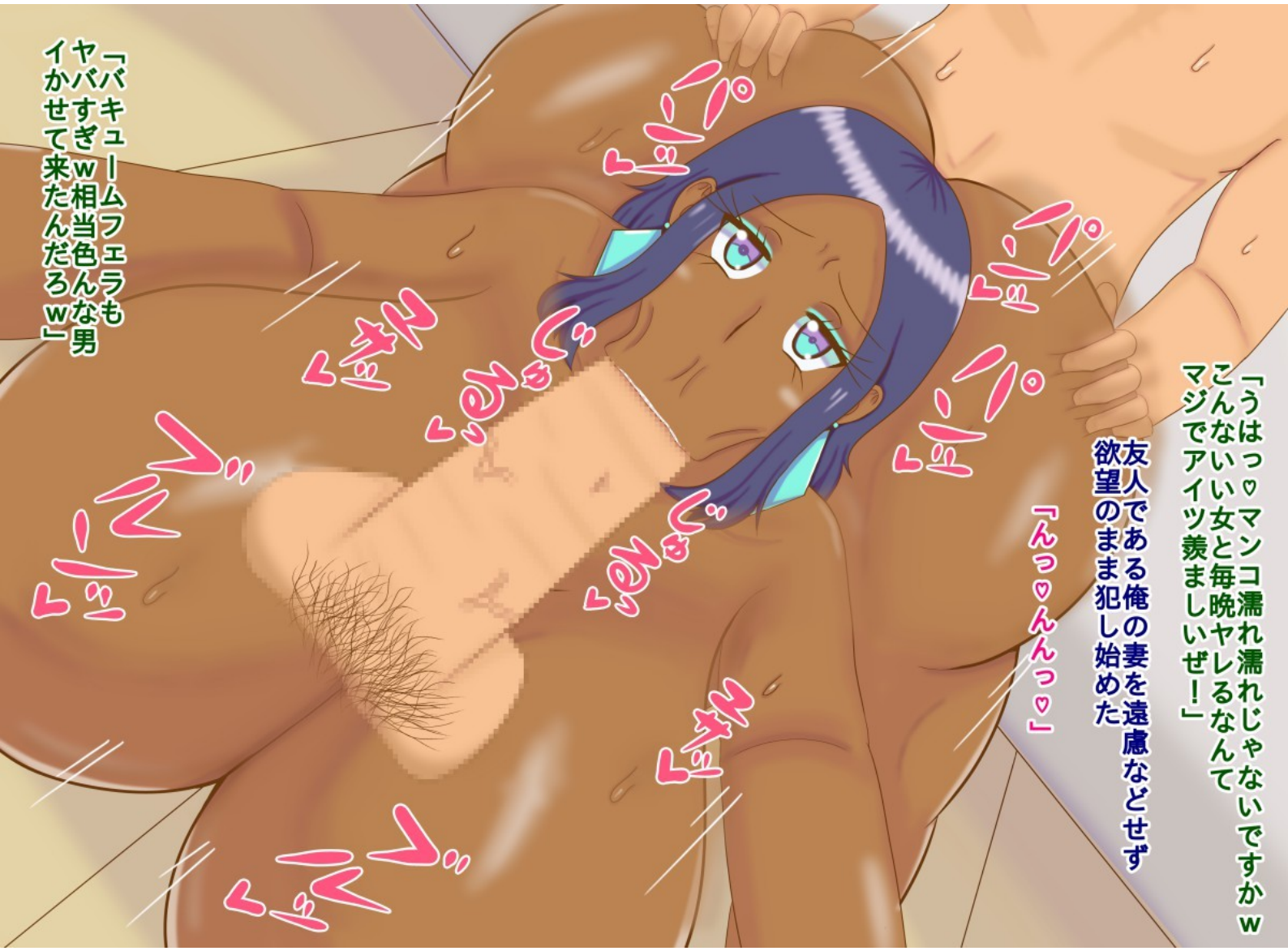
2人はチャックを下ろし
欲望のままペニスを
エレーナの胸に押しつけた
「うはっ♡なんだこの柔らかさ!?」
「ふふっ♡2人とも慌てすぎよ♡」
「そういう奥さんだって
ノリノリじゃないですか♪」
そう、彼女は抵抗するどころか
むしろペニスを握り率先してシゴき始めた
ビンッ♡
ギンッ♡
むにっ♡
むちっ♡
むにゅ♡
ビンッ♡
ギンッ!
むぎゅっ♡

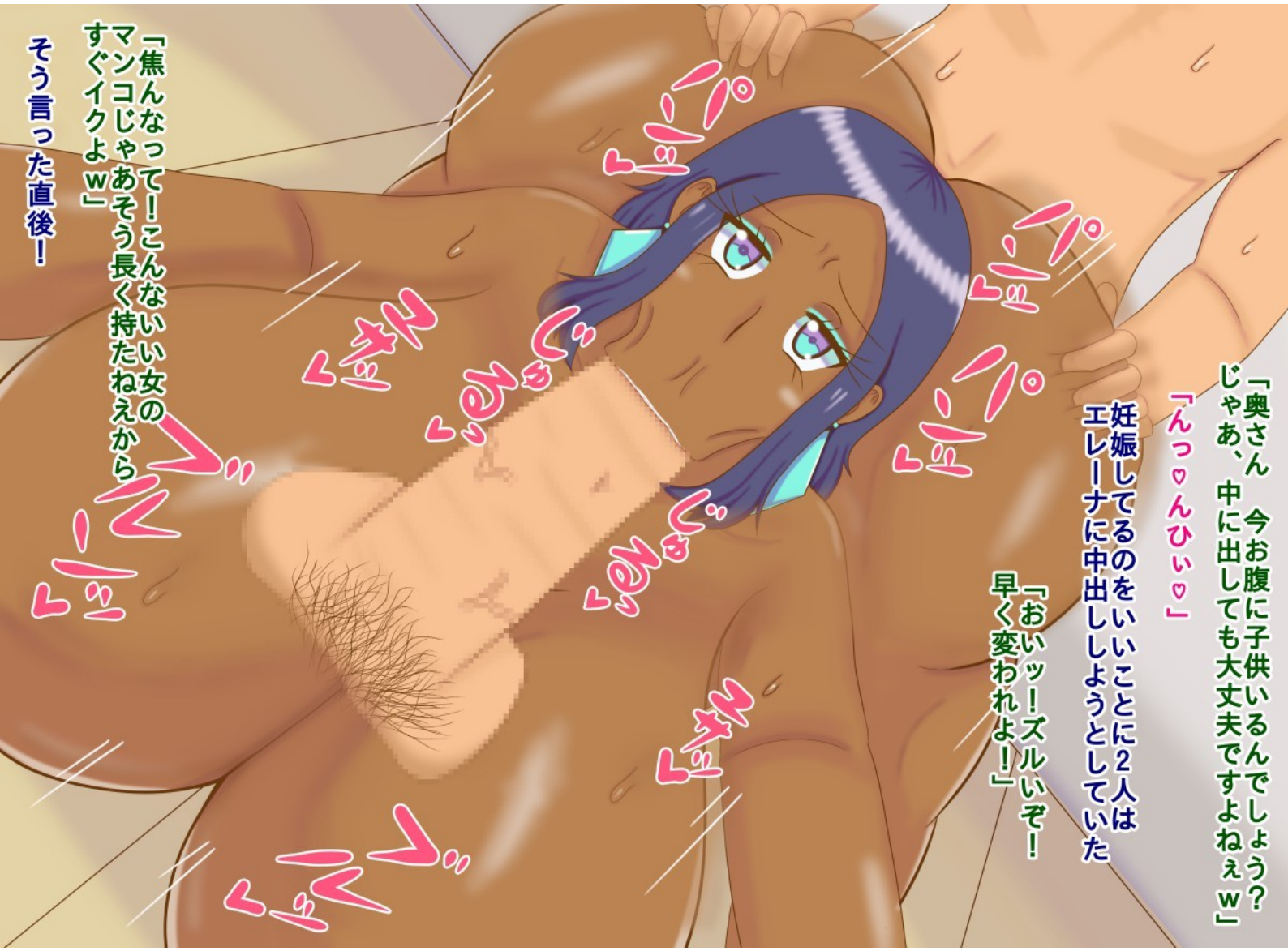
「2人ともさっきから私の身体見てギンギンに勃起しているの気づいてましたよ♡」
「へへッ♡ばれてましたかw」
「このままじゃ辛いでしょ♡」
「話が早くて助かりますよ奥さん♡」
性に対して大らかなエレーナ
2人は遠慮なく更にペニスを擦りつけた
ビンッ♥
ギンッ♥
むちっ♥
むにっ♥
むにゅ♥
ビンッ♥
ギンッ!
むちっ♥

「クソッ！アイツこんなスゲぇので毎晩楽しみやがって羨ましいぜ！」
「でも今日だけは2人の好きにしていいですよ♡」
「ホントに奥さん男心をわかってらっしゃるw」
俺のエレーナの身体を2人はまるで自分の物のように堪能し始めた
そして…
「あッ♡ヤバいもう出るッ♡」
ビンッ♥
ギンッ♥
むちっ♥
むにっ♥
むにゅ♥
ビンッ♥
ギンッ！ぎゅ♥

「おっ♡おぉ…♡」
2人はエレーナの胸目掛けて勢いよく射精した
「あらぁ～♡スゴ～い♡こんなに出しちゃって♡」
「おっ！奥さん最高だよ‼」
「ありがとうございます♡でもぉ♡オッパイだけでいいんですかぁ♡
ドピュッ♡
ドロッ♡
ベトッ♡
ビュルッ♡
ドピュッ♡
ドロッ♡
「えっ⁉そう言うと・・・」
2人は驚き今度は…

「おいおい！奥さん本当に良いんッすか！
こんな事しちゃってw」
あろうことかすぐ隣りで俺が
寝ているというのにＳＥＸが始まった
「だってぇ♡こんなにビンビンじゃ
２人とも辛いでしょ♡」
「そんなこと言って本当は自分が
ヤリたいだけじゃないんですかw」
パン
パン
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ


「うはっ♡マンコ濡れ濡れじゃないですかw
こんないい女と毎晩ヤレるなんて
マジでアイツ羨ましいぜ！」
友人である俺の妻を遠慮などせず
欲望のまま犯し始めた
「んっ♡んんっ♡」
「バキュームフェラも
ヤバすぎw相当色んな男
イかせて来たんだろw」
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ズッズッ
ズッズッ

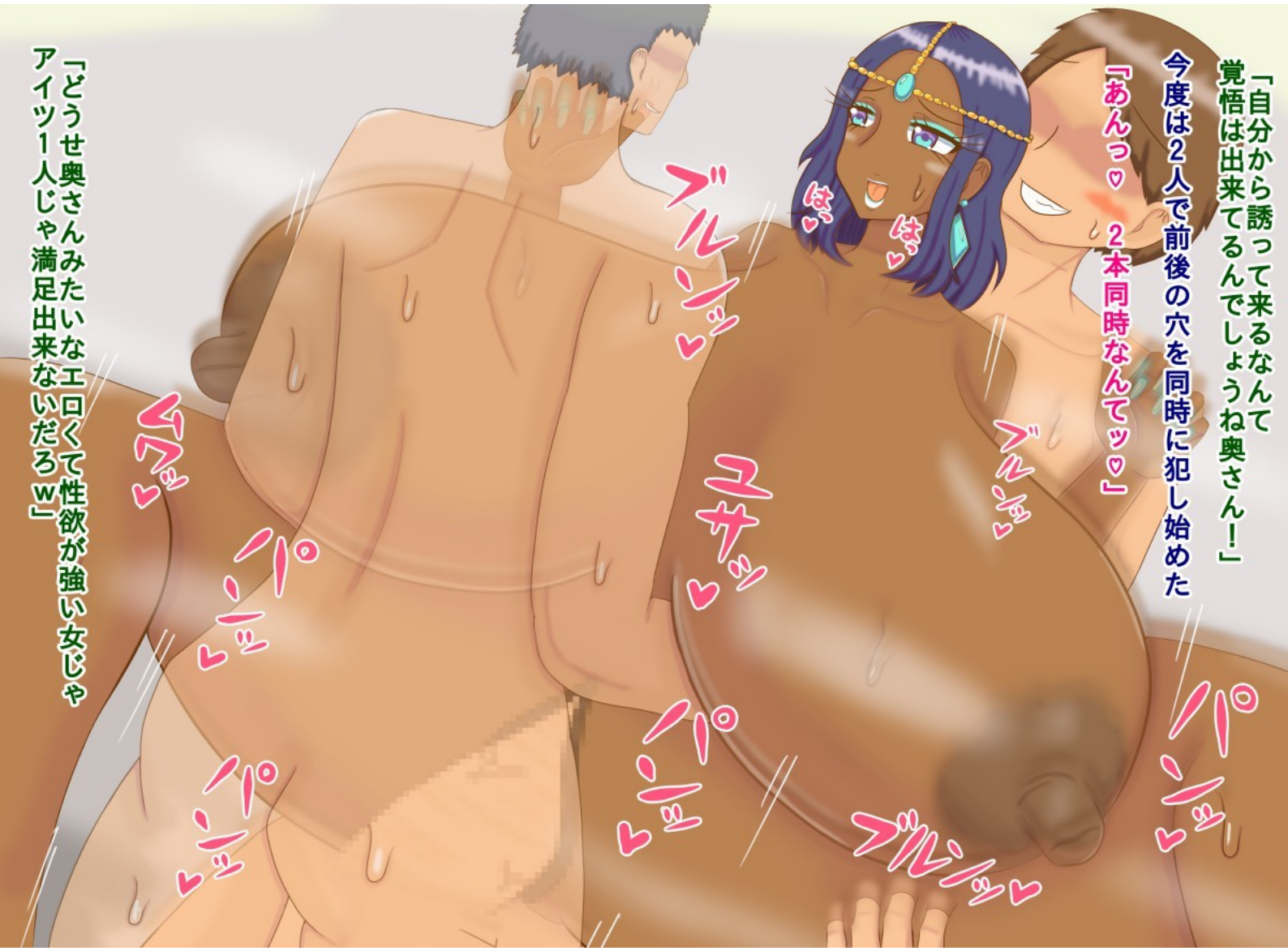

「奥さん　今お腹に子供いるんでしょう？
じゃあ、中に出しても大丈夫ですよねぇw」
「んっ♡んひぃ♡」
妊娠してるのをいいことに2人は
エレーナに中出ししようとしていた
「おいッ！ズルいぞ！
早く変われよ！」
「焦んなって！こんないい女の
マンコじゃあそう長く持たねえから
すぐイクよw」
そう言った直後！

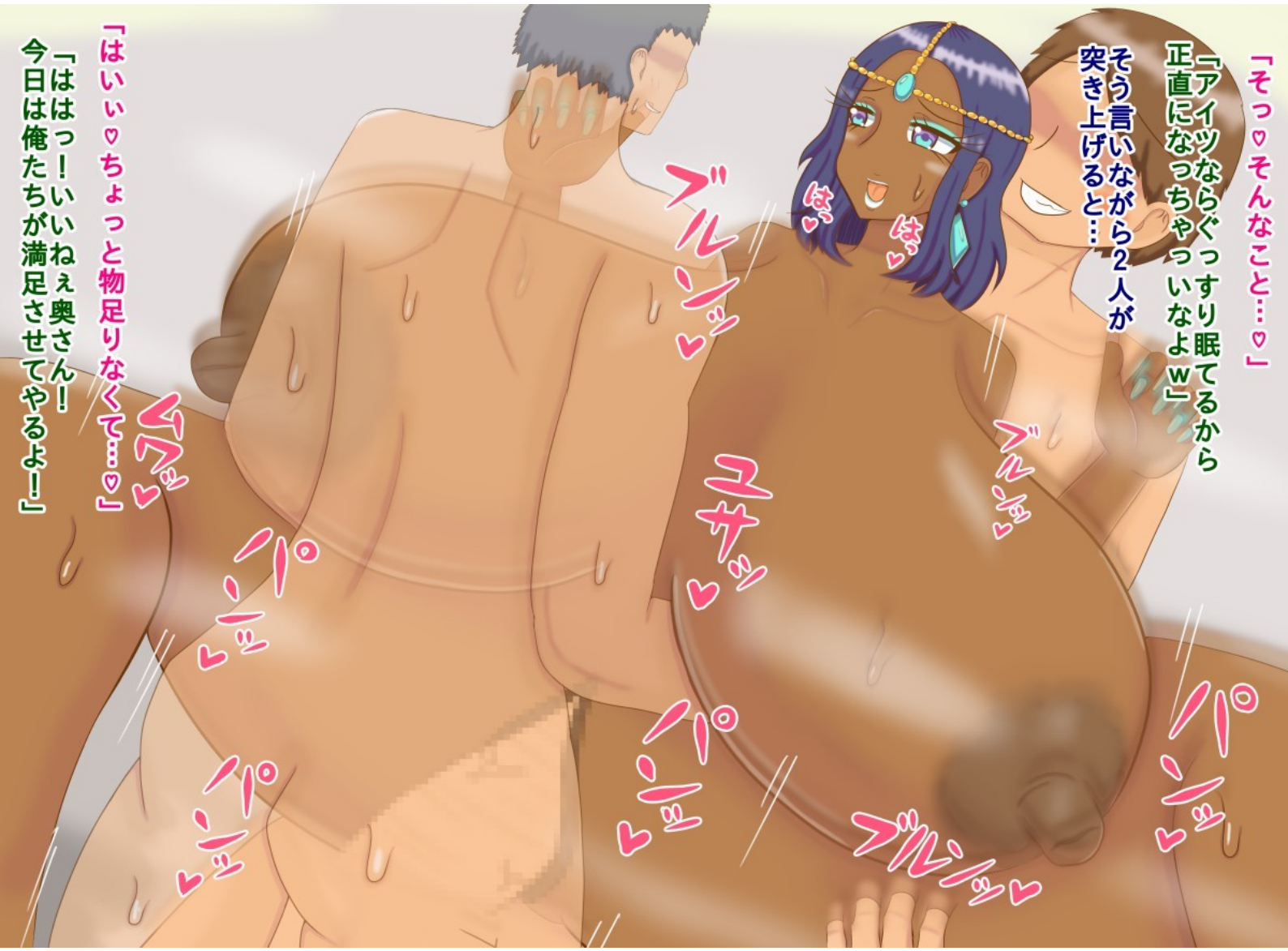
「あッ♡　あぁぁ♡」
2人は欲望のまま射精し
エレーナの身体精液まみれになった
「奥さんマジ最高だよw」
しかしこれでは終わらず…

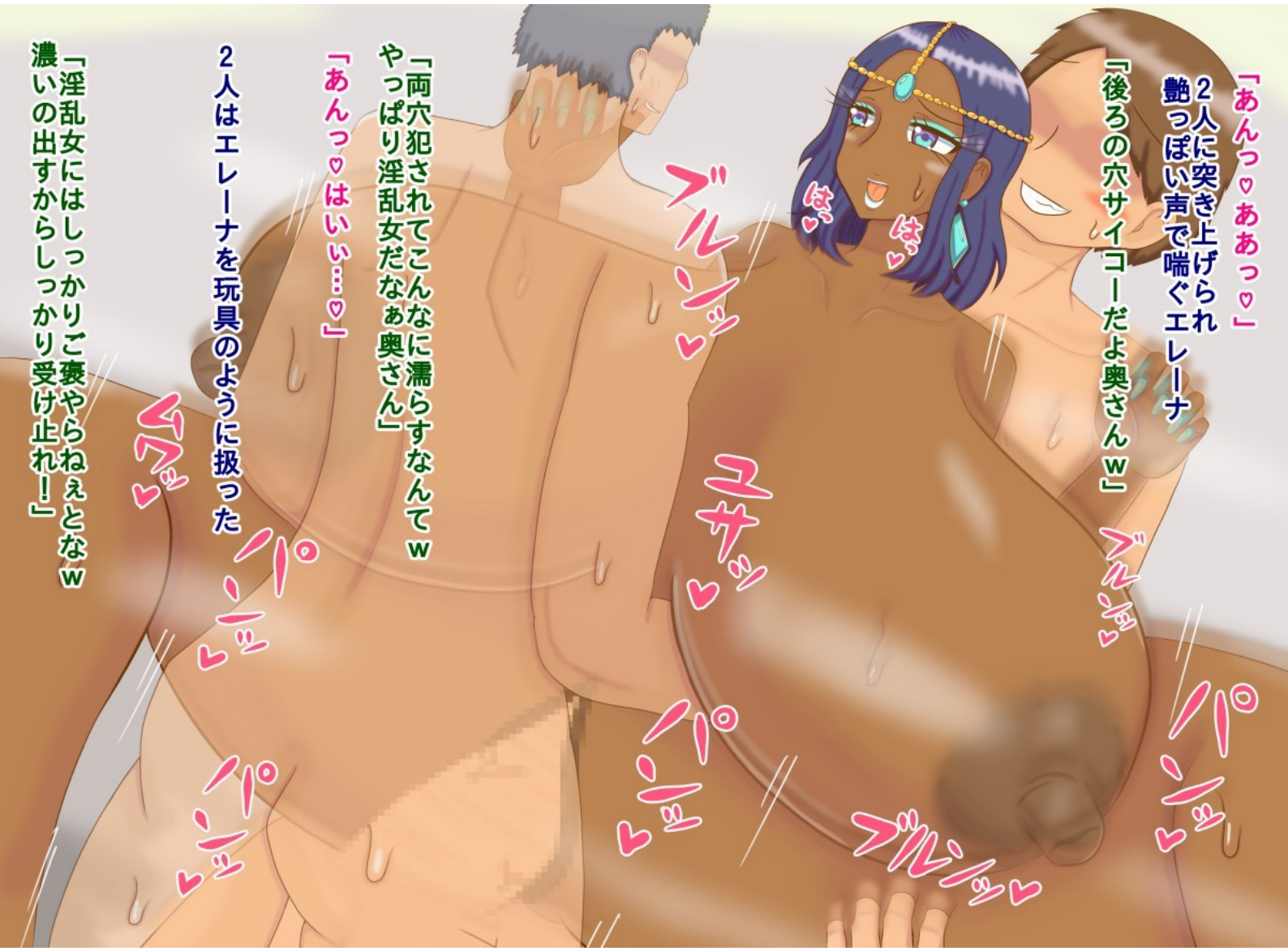
数分後…

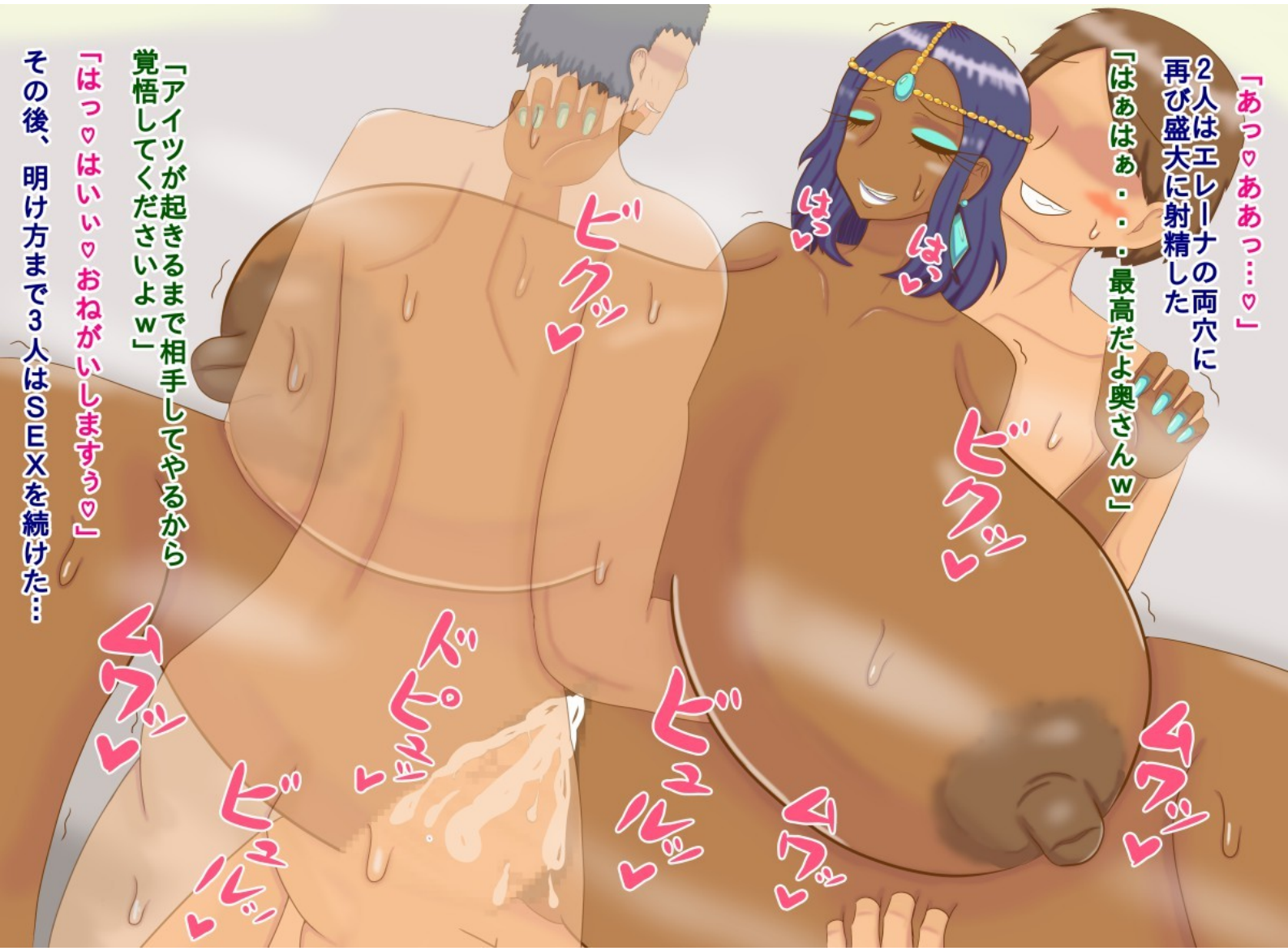
「お待たせ～♡」
「おっ!?奥さん！その恰好は♡」
いやらしいコスチュームを
身に纏い２人の前に現れた
ブルンッ♡
ムチッ♡
ブルンッ♡
ユサッ♡

「おもてなしのダンスで楽しんでくださ〜い♡」
そう言って大きな尻を下品に揺らし誘惑するよう腰を動かし始めた
プリンッ♥
プリンッ♥
ムチッ♥
ムチッ♥
ムチッ♥
ブルンッ♥
ブリンッ♥
「おおっ!!スゲぇ!!」
へばっていた2人も、こんなにイヤらしいモノ見せられ再びアソコに固さを取り戻し…


「自分から誘って来るなんて
覚悟は出来てるんでしょうね奥さん！」
今度は2人で前後の穴を同時に犯し始めた
「あんっ♡　2本同時なんてッ♡」
はっ♡
はっ♡
ブルンッ♡
ブルンッ♡
ユサッ♡
パンッ♡
パンッ♡
ブルンッ♡
パンッ♡
ムクッ♡
パンッ♡
パンッ♡
「どうせ奥さんみたいなエロくて性欲が強い女じゃ
アイツ1人じゃ満足出来ないだろw」


「そっ♡そんなこと…♡」
「アイツならぐっすり眠ってるから正直になっちゃっいなよw」
そう言いながら2人が突き上げると…
はっ♡
はっ♡
ブルンッ♡
ブルンッ♡
ユサッ♡
パンッ♡
パンッ♡
ブルンッ♡
パンッ♡
ムクッ♡
パンッ♡
パンッ♡
「はいぃ♡ちょっと物足りなくて…♡」
「ははっ！いいねぇ奥さん！今日は俺たちが満足させてやるよ！」


「あんっ♡ああっ♡」
2人に突き上げられ
艶っぽい声で喘ぐエレーナ
「後ろの穴サイコーだよ奥さんw」
はっ♡
はっ♡
ブルンッ♡
ブルンッ♡
ユサッ♡
パンッ♡
パンッ♡
ブルンッ♡
パンッ♡
「両穴犯されてこんなに濡らすなんてw
やっぱり淫乱女だなぁ奥さん」
「あんっ♡はいぃ…♡」
2人はエレーナを玩具のように扱った
ムクッ♡
パンッ♡
パンッ♡
「淫乱女にはしっかりご褒やらねぇとなw
濃いの出すからしっかり受け止れ！」


「あっ♡ああっ…♡」
2人はエレーナの両穴に
再び盛大に射精した
「はぁはぁ・・・最高だよ奥さんw」
「アイツが起きるまで相手してやるから
覚悟してくださいよw」
「はっ♡はいぃ♡おねがいしますぅ♡」
その後、明け方まで3人はSEXを続けた…
はっ♡
はっ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ムクッ♡
ムクッ♡
ビュルッ♡
ビュルッ♡
ムクッ♡
ビュルッ♡

#03　近所の小○生と…

とある日の事
僕は学校から帰ると鍵を忘れた事に気が付いた
両親は共働きで遅くにならないと帰って来ない
雨降る中家の前で座り込んでいると・・・
ザァー
ザァー
ポタッ
ポタッ

「あら？君大丈夫？」
話しかけて来たのは近所に住むエレーナさんだった事情を説明すると…
むちっ♥
むちっ♥
ボテッ♥
「それじゃあお父さんとお母さんが帰って来るまで家に来る？」
お言葉に甘えてお家にお邪魔すると…

「雨で体冷えたでしょ♡一緒に温まろうねぇ♡」
そう言って一緒にお風呂に入ることになったのだが
年頃の僕がエレーナさんみたいなキレイな人と
一緒にお風呂に入れば当然下半身が反応してしまい
それに気付いたのか…
「アレ～♡ココ固くなってるね♡
Hな事考えているでしょう♡」
「えっ⁉いやっ！その…」
恥ずかしさの余り言い訳しようとしたが
「ウフフ♡しょうがないわねぇ♡こっち来て♡」
ぎゅっ
ぎゅっ
チャポ
ビーン!!
ビーン!!
チャポ

「ウフフ♡おませさんね♡
今日だけ特別よ♡」
そう言ってエレーナさんは僕に覆いかぶさりその巨大すぎるオッパイで僕のペニスをスッポリと包み込んだ
「あッ♡あぁぁ…♡」
挟まれただけでイキそうになってしまう
「もうっ♡そんな声出しちゃって♡まだまだこれからよ♡」
そう言ってオッパイを動かし始めると…！
ムチッ♡
ムチッ♡
ムニュ♡
ズリュ♡
ビクッ♡
ビクッ♡

「あっ♡あぁぁ♡」
あまりの気持ち良さに
思わず声が出てしまった
「どぉ♡私のパイズリ♡
気持ちイイでしょ♡」
「はっ♡はいっ♡」
パンッ!!
パンッ!!
パンッ!!
パンッ!!
パンッ!!
スチャ♡
スチャ♡
子供の僕にとって刺激が強すぎて
すぐに限界を迎えそうになった
エレーナさんもそれに気付いたのか
「我慢しないでイッパイ
出しちゃいなさい♡」
そう言われた次の瞬間！

「うわぁ♡スッゴいココまで飛んだぁ♡」
気持ち良さに比例するように顔や胸に目掛けて勢いよく射精してしまった…
ムクッ♡
ドプッ♡
ビュルッ♡
ドピュッ♡
ベトッ♡
ムクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
スチャ♡
気持ち良すぎてにボーっとしていると
「何へばってるの♡まだこれからよ♡」

エレーナさんは僕にまたがり
「あんなに出したのに
もうこんなにギンギンじゃない♡」
「あッ♡あのッ♡次は
何をするんですか♡」
僕は恐る恐る尋ねると
「ふふっ♡分かってるくせに♡
君を一人前の男にしてあげるのよ♡」
そう言って僕のペニスを優しく握ると！
ムクッ
ムクッ
ビンッ
ビンッ
ムクッ
ムクッ

「あッ♡ああっ♡」
導かれるままエレーナさんの
膣内に入ってしまった
「うふふっ♡これで童貞卒業ね♡」
膣内はヌルヌルして温かくさっき出し
たばかりなのに今にも射精してしまいそうだ
それに気付いたエレーナさんは今度は
「まだイっちゃダメよ♡
これからが本番なんだから♡」
ムクッ
ムチッ
ズポッ
ズニュ
ムチッ
ムクッ

「あっ♡ああっ♡」
エレーナさんは身体を上下に動かし始め
僕のおチンチン刺激して来た
「どぉ♡ 初体験の感触は♡」
射精を堪えるのに必死で
質問に答えるどころではなかった
目の前で巨大なオッパイを惜しげもなく
揺らし膣内はギュウギュウと締め付け
全身を使い射精を促してきた
子供の僕がそんな快楽に耐えられるわけもなく…
ブルンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ブルンッ
パンッ
パンッ

挿入してものの数秒で
膣の中に射精してしまった…
「アレ～♡もうイっちゃたのぉ？
ダメじゃない♡」
「ごっ♡ごめんなさいぃ…♡」
「まぁ♡初めてにしては頑張ったほうね♡」
そう言って優しく受け止めてくれた
ムクッ♥
ムクッ♥ビクビク
ビュッ♥ビュッ♥ビュッ♥
ドプッ♥
ビュッ♥ビュッ♥ビュッ♥

僕はお風呂を上がり先に部屋に戻ってベッドで横になっていた
余りの出来事と射精の疲労感でボーっとしていると後からエレーナさんがやってきた…

「お待たせ～♡」

「えっ⁉」
現れたのは布面積の少ない
牛柄の水着に身を包んだエレーナさんだった
「どうかしらこの格好？」
ムチッ♡
ムチッ♡
ブルンッ♡
ブルンッ♡
ユサッ♡
ユサッ♡
肌かより何倍もイヤらしいその姿に
僕のおチンチンは再び固くなり始めた
「あら～？気に入ってくれたみたいね♡」

僕とエレーナさんは再びプレイを始めた
僕はその大きなオッパイに欲望のまま
むしゃぶり付き母乳をすすり
「ふふっ♡そんなにがっついちゃって♡
本当にオッパイが好きなのね♡」
こんな大きくて魅力的なオッパイ
男なら誰でも夢中になってしまう
エレーナさんはもう片方のオッパイで
僕のペニスをシゴき始めた
ムチッ♡
ゴクッ♡
ピュッ♡
チュパッ♡
ムニュ♡
モミッ♡
シコッ♡
シコッ♡
ズニッ♡

「んっ♡んんっ♡」
エレーナさんの柔らかいオッパイと母乳ローション手コキでさっきあれだけ出したのに早くもイキそうになってしまう
「もうヒクヒクさせちゃって♡ほら♡遠慮しないで出しちゃっていいのよ♡」
限界が近かった僕はその甘い誘惑に勝てず！
ムチッ♡
ゴクッ♡
ピュッ♡
チュパッ♡
ムニュ♡
ピュッ♡
モミッ♡
シコッ♡
シコッ♡
ズニッ♡

「んっ♡んんっ♡」
またエレーナさんの大きなオッパイ
目掛け射精してしまった…
「スッゴ〜イ♡あんなに出したのに
まだこんなにでるなんて♡
若いってスゴいのね♡」
ベトッ♡
ビュルッ♡
ドロッ♡
ドピュッ♡
モミッ♡
ムニュ♡
ピュッ♡
ピュッ♡
チュパッ♡
ゴクッ♡
ムチッ♡
自分でも驚くほど射精量だった
しかし…
「でもぉ♡まだ固いわね♡
もうちょっとしよっか♡」
そう言って今度は寝室に場所を移し

「ほっ！ホントにいいんですか？」
少し冷静になった僕はお腹の
赤ちゃんが心配になった
しかしエレーナさんは…
「散々ヤッといてなに今更遠慮してるのよ♡
それにそんなにビンビンに
しちゃって我慢できる？」
彼女の言う通り僕のおチンチンは
固く膨張していた自分の性欲を抑えられず
ムチッ♡
ユサッ♡
ムチッ♡
ユサッ♡
ビンッ!!
ギンッ!!

「あっ♡ああっ♡」
突く度にエレーナさんはイヤらしい
喘ぎ声を上げ巨大な胸を
縦横無尽に揺らし僕の興奮を掻き立てる
「上手よぉ♡その調子で突いてぇ♡」
ブルンッ♡
ブルンッ♡
ムギュ♡
ブルンッ♡
ユサッ♡
ユサッ♡
ズポッ♡
ジュポッ♡
パンッ♡
パンッ♡

褒められて嬉しくなってしまい
「エレーナさんっ！もうイキそうですっ！」
「さっきあんなに出したんだからぁ♡
今回はもうちょっと我慢しなさい♡」
「でっ！でもぉ…♡」
僕はいい終わる前に！
ブルンッ♡
ブルンッ♡
ムギュッ♡
ブルンッ♡
ユサッ♡
ユサッ♡
ズポッ♡
ジュポッ♡
パンッ♡
パンッ♡

「あっ♡あぁ…♡」
エレーナさんのボテ腹に
最後の一滴まで注いでしまった…
「もうっ♡こんなに射精する
なんて将来有望ね♡」
全てを出し切ってフニャフニャになった
ペニスを膣内から抜いた
ビクッ♡
ムワッ♡
ビクッ♡
ムワッ♡
ビクッ♡
ドプッ♡
ドピュッ♡
ハァ♡
ハァ♡

「赤ちゃん産まれたらもっと立派な男の子になれるように練習してあげるからまた家にいらっしゃい♡」
「はっ！はい！」そんな約束を交わして僕の初体験は終わった…
ビクッ♥
ビクッ♥
ムワッ♥
ムワッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ドロッ♥
ドプッ♥
ムワッ♥
ムワッ♥

#04 夫と旅行先でSEX

エレーナの出産後しばらくしての事
長い妊娠期間の労いも兼ねて
両親に子供を預けて久しぶりに
２人で旅行に来ていた

「エレーナ遅いな…」

そう思って先にビーチで待っていると

「お待たせ～♡」

「ゴメン～♡更衣室混んでて♡」
水着姿のエレーナがやって来た
その姿は我が妻ながら圧巻だった
ユサッ♡
ムチッ♡
ユサッ♡
ムチッ♡
妊娠中は大事を取って一切
性行為をしていなかったので
俺のボルテージは高まっており
海に入るやいなや…

「ちょ！ちょっとダーリンどうしたの♡」

「なあ、久しぶりなんだしいいだろw」
海の中で下半身を出し
エレーナの後ろから抱きついた

ムニュ♡

ビンビン!!

ギンギン!!

ムチッ♡

「こんなとこでしたら誰かに
見られるかもしれないわよ？」

「そん時はそん時だw」
溜まった欲求を抑えられず
有無を言わせず挿入した

久しぶりのＳＥＸで改めて感動を覚えた
「もう♡　ガッツキすぎよ♡」
そんなこと言ってもずっと禁欲してたんだ
今日はトコトン満足させて貰うつもりだ
「ほら！出すぞ！」
チャプ♡
ムニュ♡
パンッ♡
パンッ♡
チャプ♡
ムチッ♡

久しぶりSEXと大自然という解放敵な
シチュエーションですぐに射精してしまった
「最高だよエレーナ♡」
「んっ♡もう♡こんなに出しちゃって♡」
チュプ♥
ムニュ♥
ビュクッ♥
ビュッ♥
ブプッ♥
ムチッ♥
なんだかんだ言ってエレーナも
悪い気はしてないようだ
そんな姿を見た俺の興奮は収まらず

今度は岩陰に隠れて今度はパイズリだ
「もうっ♡ホントにこんな所でするの？誰かに見られるかもよ♡」
「その方が興奮するだろうw」性欲を抑えられずエレーナの乳マンコにペニスを突っ込んだ
ムニュ♡
ビッ♡
ズポッ♡
ムチッ♡

「おっ♡おおぉ♡」
やはりエレーナのパイズリは
暴力的なまでの気持ち良さだった
「さっきあんなに出したのに
もうこんなに固くしちゃって♡
ホント困った人ね♡」
そう言いながらも献身的に巨大な胸でシゴいてくれる
1度目射精で敏感になった俺のペニスは程なくして
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
ムチッ♡

「あっ♡スッゴい♡」
エレーナの乳マンコに搾り取られるように大量に射精してしまった…
「ホントっ♡相変わらず元気ねぇ♡」
しかしこれでも俺の性欲は収まらず…
ビュクッ♡
ブピュッ♡
ドロッ♡
ベトッ♡

「もう♡　ちょっとは落ち着いて♡」
そんな静止は聞かずに青空の下
一糸纏わぬ姿で交尾を始めた
「あっ♡ああっ♡」
イヤらしい喘ぎ声と肉がぶつかり
合う音が当たりに響いた
「あんっ♡こんなに♡音立てたら♡
本当に誰かに気付かれちゃう♡」
彼女の予想は現実のものとなり
パンッ♡
パンッ♡
ジュポッ♡
ブルンッ♡
ハァ♡
ハァ♡
ブルッ♡

（おいっ見てみろよ！）
数人の男の声がし
こちらに気付いたようだ
（おいスゲぇぞ！ヤってるねw）
パシャ！
パンッ♥
パンッ♥
ジュポッ♥
ブルンッ♥
ハァ♥
ハァ♥
少し離れた所でシャッター音がした
「ほら、見られてるぞw」
「あんっ♡ダメぇ♡」
そんな姿を見た俺の興奮はピークに達し！
ブルッ♥

ギャラリーがいるというのにお互い
恥ずかしいくらい精液と愛液を
まき散らしながら絶頂期した
「あッ♡ああっ…♡」
ビクッ♡
ビュルッ♡
ドプッ♡
ドロッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
これ以上は騒ぎになるので
フラフラのエレーナを抱え宿まで戻った

宿に戻った俺たちは部屋の露天風呂にいた
「もうっ♡　恥ずかしかったじゃない♡」
「悪い悪いw」
痴話ケンカをしていた
「でもエレーナだって
まんざらでもない感じだったけどw」
「それは…♡」
タプン
タプン
チャポン

反応からして本気で怒っているわけではなさそうだ
そんな姿を見て再び興奮して来た俺は
「なぁ、もう一回しないか？」
「もう♡しょうがないわね♡」
そう言うと岩に手を付き…
タプ
タプ
チャポン

「ほ～ら♡来て♡」
エレーナは大きな尻を
こちらに向けて準備万端だ
「それじゃあ遠慮なくw」
すっかり回復したペニスを挿入し
プリンッ♡
プリンッ♡
ムチッ♡
ムチッ♡

「あんっ♡あああっ♡」
再び肉と肉がぶつかり合う音を響かせた
「はっ！はっ！こんだけ開放的な場所だ
もしかしたらまた覗かれてるかもなw」
「そんなぁ♡　ダメぇ…♡」
そう言いつつもアソコは
濡れ締付けは強くなる
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡

「ほらっ！ほらっ！どうだ」
わざと音を響かせるように
強く腰を打ち付けた
「あっ♡あぁぁ♡ダーリン
お願いぃ♡早く来てぇ♡」
更に自ら腰を動かし射精を促してくる
「あぁ！中に出してやるからしっかり受け止めろ！」
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡

「あんっ♡あああっ♡」
エレーナは閑静な夜に
イヤらしい喘ぎ声を響かせた
俺は膣内から逆流するほどの
精液を膣内に射精した
しかし夜はこれからが本番で…
ビクッ♡
ビュクッ♡
ビクッ♡
ドプッ♡
ドプッ♡
ビクッ♡
ドピュッ♡
ビクッ♡

「あっ♡ああっ♡」
部屋に戻っても相変わらず性欲は収まらずSEX三昧だった
まるで繁殖期の動物か如く性をむさぼった
「ダーリン凄すぎぃ♡あんなに出したのにぃ♡まだこんなにぃ♡」

「ねぇ♡ダーリン♡私早く2人目欲しいの♡だからお願いぃ♡」
先日出産したばかりだというのにもう2人目のおねだりかしかし男としてせがまれたら悪い気はしない
「あぁ！絶対に孕ませてやるからなしっかり受け止めろ！」そう言ってラストスパートをかけると！

「はぁ、はぁ…」
金玉が空っぽになる勢いで射精し
膣内をこれでもかというほど精液で満たした
「あっ♡スゴいぃ…♡」
流石の俺もヘトヘトだったが
その甲斐あって数ヶ月念願の
2人目を授かる事となったのだが…
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビュルルッ

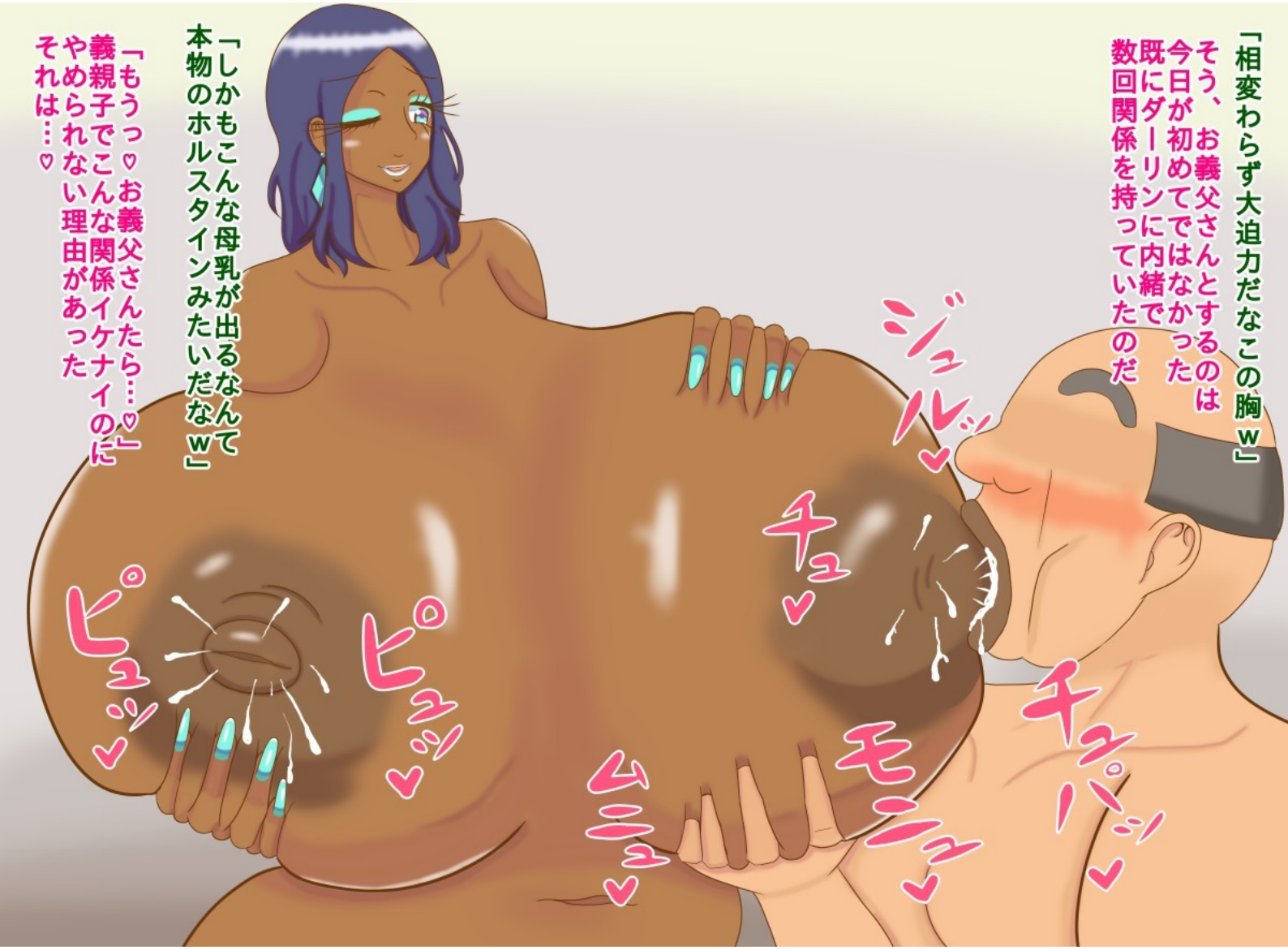
#05 義父とイケナイSEX

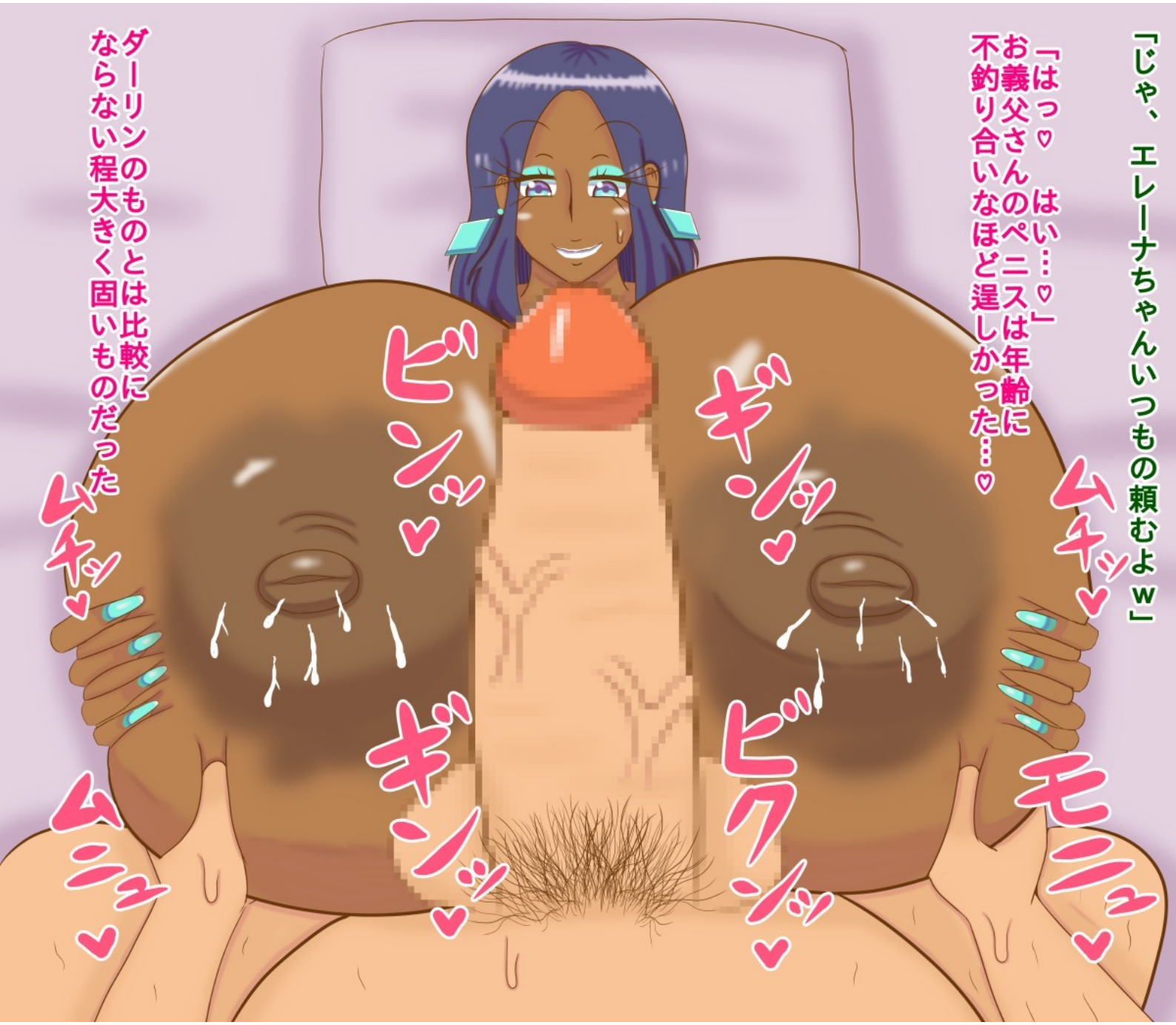
これは先日の旅行に
行く前日の出来事…

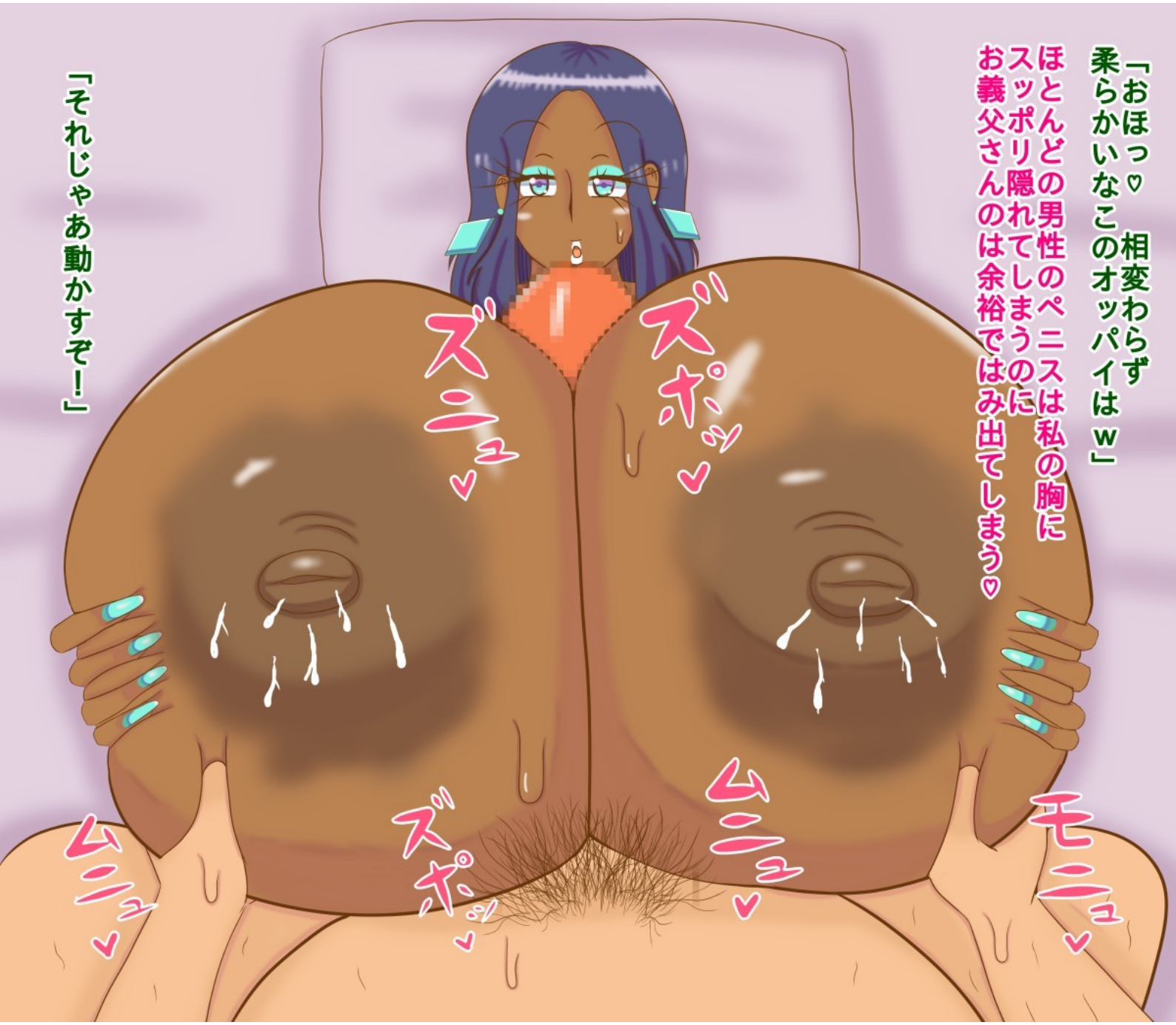
「エレーナちゃん　遊びに来たよ♪」
「あらっ♡お義父さんいらっしゃい♡」
この人はダーリンお父さん
私にとって義理の父親にあたる
子供を預かってくれるため
我が家にやって来てくれたのだが…

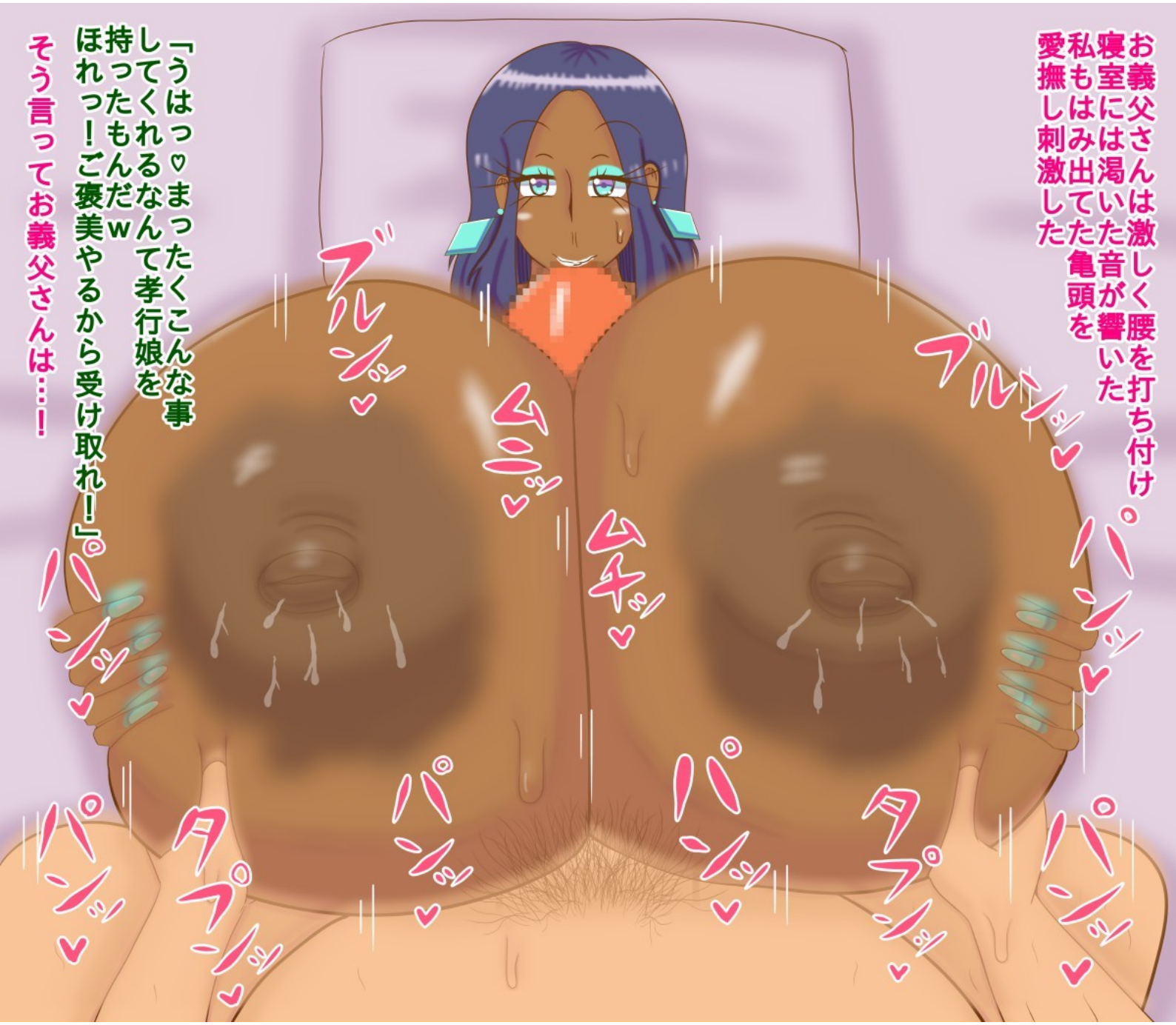
「いやぁ～しばらく見ないうちに大きくなったね♡」
初孫を愛でるお義父さん
これだけ見ればいいおじいちゃんなのだがしかし…
ギンッ♡
ビンッ♡
チュ♡
チュ♡

「こんなに大きなオッパイで育てられる
なんて羨ましい限りだよw」
そう、お義父さんが我が家に来たのは
息子だけでなく私の身体目当てでもあった…
「もうっ♡お義父さんたら…♡」
「へっへっwいつも通り頼むよw」
ムニュ♡
モニュ♡


「相変わらず大迫力だなこの胸w」
そう、お義父さんとするのは今日が初めてではなかった既にダーリンに内緒で数回関係を持っていたのだ
「しかもこんな母乳が出るなんて本物のホルスタインみたいだなw」
「もうっ♡お義父さんたら…♡」義親子でこんな関係イケナイのにやめられない理由があったそれは…♡
ジュルッ♡
チュ♡
チュパッ♡
モニュ♡
ムニュ♡
ピュッ♡
ピュッ♡


「じゃ、エレーナちゃんいつもの頼むよw」
「はっ♡　はい…♡」
お義父さんのペニスは年齢に
不釣り合いなほど逞しかった…♡
ダーリンのものとは比較に
ならない程大きく固いものだった
ムチッ♡
モニュ♡
ギンッ♡
ビクンッ♡
ビンッ♡
ギンッ♡
ムチッ♡
ムニュ♡


「おほっ♡　相変わらず柔らかいなこのオッパイはw」
ほとんどの男性のペニスは私の胸にスッポリ隠れてしまうのにお義父さんのは余裕ではみ出てしまう♡
「それじゃあ動かすぞ！」
ズニュ♡
ズポッ♡
ムニュ♡
ズポッ♡
ムニュ♡
モニュ♡


お義父さんは激しく腰を打ち付け
寝室には渇いた音が響いた
私もはみ出てた亀頭を
愛撫し刺激した
「うはっ♡まったくこんな事
してくれるなんて孝行娘を
持ったもんだw
ほれっ！ご褒美やるから受け取れ！」
そう言ってお義父さんは…！
ブルンッ♡
ムニッ♡
ムチッ♡
パンッ♡
タプッ♡

「おぉ♡濃厚なのが出たぞw」
お義父さん精液は
私の顔を覆いつくす程
射精し一瞬で部屋に臭いが
充満するほどだった
しかし、この人にとって
これは前戯にしか過ぎなかった…♡
ムフッ♡
ムフッ♡
ネバッ♡
ビュルッ♡
ベトッ♡
ドピュッ♡
ドロッ♡
ベトッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡

「ふひひっW　相変わらず締まりの良いマンコだなw」
「それはお義父さんのが大きいからぁ♡」
義親子だというのに
当然のようにSEXが始まった
「嬉しいこと言ってくれるねw
それじゃあ動かすぞw」
私はこの関係を拒まなかった
お義父さんの巨大なペニスを
気に入ってしまっていたのだ…♡
ギュッ♡
ムギュ♡
ズボッ♡
ズボッ♡
ムチッ♡

「ほれっ！どうだ！」
「はひぃ♡」
お義父さんの大きすぎるペニスは
一突きする度に私の一番奥まで余裕で届いた
ダーリンはもちろん今までの男性でも
これ程の物はそうそういない
ギュッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
ズボッ♡
ブルッ♡
ハァ♡
ハァ♡

「エレーナちゃんワシはもう1人孫の顔が見たいなw今度は女の子がいいなぁw」
「はひぃ♡」
その言葉が意味するのは当然…♡
ハァ♡ハァ♡
ギュッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
ズボッ♡
ジュポッ♡
ブルッ♡
「ほれっ！中に出すからしっかり受け止めろよ！」
そう言って腰の動きを速め！

「おっ♡おおぉ…♡」
さっき大量に出したのにそれ以上の
精液を膣内に射精された
「久しぶりだから年甲斐もなく
ハッスルしてしまったよw」
そう言っている間にも巨大な
ペニスからドクドクと注がれている
「流石に疲れたw
少し休ませてもらうよ」
ビクッ♡
ビュルッ♡
ドピュッ♡
ムクッ♡
ドプッ♡
ビクッ♡

お義父さんが休んでる間
私は次の準備をした

「お待たせしましたぁ～♡」

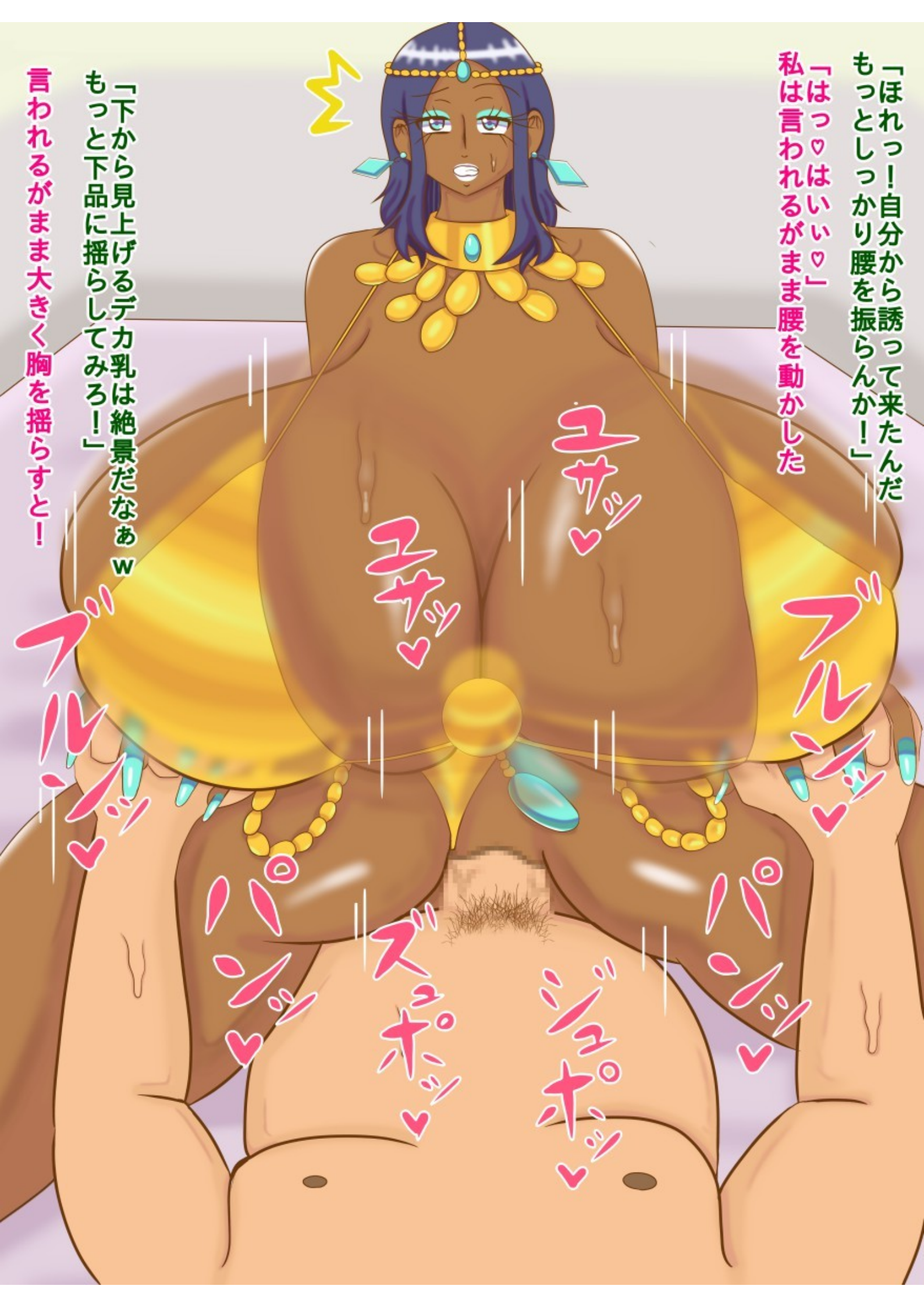
「おおっ！　なんちゅう格好だw」

ダンス衣装を纏いお義父さんの前現れた

「お義父さんにダンスで
おもてなししようと思いまして♡」
そして私はベッドの上で

「どうですかぁ♡お義父さん♡」
自分のイヤらしい身体を揺らし
お義父さんを誘惑した
ムチッ♡
ムワッ♡
ブルッ♡
ブルッ♡
ムワッ♡
「こんなもの見せられたら
もうひと頑張りせねばw」
そう言うとお義父さんのアソコは
再び固さを取り戻し…
ムチッ♡
ユサッ♡
ユサッ♡

お義父さんにまたがりSEXを再開した
「まったく！義父を誘惑するなんて
とんだ淫乱義娘を貰ったもんだw」
「はいぃ♡
申し訳ございませんっ♡」
ムチッ♡
ムチッ♡
「しっかり躾してやらんとなw」
そう言うと固くて太いモノで下から突き上げてきた
ズポッ♡
ズポッ♡
ズンッ♡
ズンッ♡


「ほれっ！自分から誘って来たんだ
もっとしっかり腰を振らんか！」
「はっ♡はいぃ♡」
私は言われるがまま腰を動かした
「下から見上げるデカ乳は絶景だなぁw
もっと下品に揺らしてみろ！」
言われるがまま大きく胸を揺らすと！
ユサッ♡
ユサッ♡
ブルンッ♡
ブルンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
ジュポッ♡
ズポッ♡

「おおっ！これはスゴい！」
小さかった衣装は限界に達して
破け私の胸が露わになった
「こんな下品な乳で年寄りを
たぶらかしおって！お仕置きが必要だなw」
お義父さんの興奮は加速し！
ブルンッ♥
ブルンッ♥
ブチッ♥
ブルンッ♥
ブルンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
ズッポッ♥
ジュポッ♥

「おっ！おぉぉ！出た出たw」
また膣内に濃厚な精液をドクドク注がれた…♡
「エレーナちゃんの身体は何発ヤってもお飽きないなw」
その言葉通りまだまだ終わらず…
ビクッ♥
ビクッ♥
ムクッ♥
ベトッ♥
ドピュッ♥
ビュルッ♥
ムクッ♥
ムクッ♥

「ほれっ！ほれっ！もっと腰振って親子孝行しなさい！」
（嘘でしょ…♡こんなにスゴいなんてっ…♡）お義父さんの性欲は留まるどころか更に加速した
パンッ♡
パンッ♡
ジュポッ♡
パンッ♡
モニュ♡
ムニュ♡
ムチッ♡
ブルンッ♡
チュ♡
チュ♡
「エレーナちゃんどうして欲しいか自分の口では言ってごらんw」
そうお義父さんは強要して来た…

「お義父さんのぉ♡濃厚ザーメンでぇ♡
孕ませてくださいぃ♡」
はしたなく媚びるようにせがんだ
パンッ♡
パンッ♡
ジュポッ♡
パンッ♡
モニュ♡
ムニュ♡
ムチッ♡
ブルンッ♡
チュ♡
チュ♡
「ははっwまったくけしからん
売女義娘を持ったもんだwそ
れじゃあお望み通り出してやるか！」
そして次の瞬間！

「んっ♡んんっ♡」
今日数回目だというのに衰えを
感じさせない射精で膣内が満たされた
ビュルッ♡
ビクッ♡
ドピュッ♡
ビクッ♡
「ほれっほれっwワシの子
孕みたいんだろw」
射精後もわざとらしい膣内で
ネチネチ擦りつけきた…♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡

「お義父さんっ♡そろそろ止めないとっ…♡」
私は焦っていた、いつもなら後10分程で
ダーリンが帰って来る時間だった…
「だったら頑張ってさっさとワシを
射精させたらどうだw」
どうやらお義父さんは止める気はまったくないようだ
私は更に腰を強く叩きつけるように動かし
ズポッ♥
ジュポッ♥
ブルンッ♥
ブルンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥

「そんなに腰振ってつくづく売女だなぁエレーナちゃんはw」
「お願いしますぅ♡」ダーリンにばれるわけにはいかないどんな手を使ってでも射精を促した
「ふっふっw義父にせがむとはどこまでも売女だなwお望み通り出してやるから孕めよ！」
腰の動きをもう一段階上げラストスパートをかけると！
ズポッ♥
ジュポッ♥
ブルンッ♥
ブルンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥

「あっ♡ああっ♡」
子宮に濃厚な精液を注がれた
「ほれっほれっ最後の
一滴まで受け取りなさいw」
「あっ♡あひがとうございますぅ♡」
私はアへりながお義父さんの
精液を子宮で受け止めた
ビクッ♡
ドクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ドクッ♡
ドピュ♡
ビュル♡
ムクッ♡
この数ヶ月後、当然私は妊娠した
ダーリンの子かお義父さんの子は未だわからないが…♡